



令和5年2月9日

各位

上場会社名 株式会社 アイビー化粧品
 代表者 代表取締役社長 白銀 浩二
 (コード番号 4918)
 問合せ先責任者 取締役 経営管理部 部長 中山 聖仁
 (TEL 03-6880-1201)

業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、令和4年11月10日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

令和5年3月期通期個別業績予想数値の修正(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,450	170	160	120	18.50
今回修正予想(B)	3,100	△100	△110	△150	△37.00
増減額(B-A)	△350	△270	△270	△270	
増減率(%)	△10.1	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (令和4年3月期)	3,534	83	81	40	2.33

修正の理由

当第3四半期会計期間におきましては、新型コロナウイルス感染症の第7波は終息に向かったものの、第8波が急速に広がりました。一方で、脱コロナに向けて、社会経済活動は徐々に規制緩和の動きとなりました。

そういった中で、当社においても、当第3四半期会計期間において、各種研修等の開催を推進すべく活動を行いました。研修動員数は思ったほど回復せず、低調な状況でした。また、販売員の増員増設数も少なく推移し、当第3四半期会計期間において回復を予想していた売上高も、引き続き低調に推移しました。

その結果、当第3四半期累計期間の経営成績は、本日開示しました「令和5年3月期 第3四半期決算短信[日本基準] (非連結)」に記載のとおり、売上高は前年同四半期累計期間比25.4%減となりました。それにともない、営業損失412,277千円、経常損失414,948千円を計上いたしました。また、本日開示しました「特別損失計上に関するお知らせ」に記載のとおり当第3四半期会計期間に特別損失を82百万円を計上し、当第3四半期累計期間の四半期純損益は418,826千円の損失を計上いたしました。

通期見直しについては、例年第4四半期会計期間の売上高も多く、特に今期は新製品も多いため、ある程度は挽回できる見直しであります。しかし、第3四半期累計期間までの損失を取り返すほどではなく、売上高予想を3,450百万円から3,100百万円に修正いたします。また、経費の節減も引き続き行っておりますが、営業損益については170百万の利益から100百万円の損失に、経常損益については160百万円の利益から110百万円の損失に、当期純損益につきましても特別損失を計上したこともあり、120百万円の利益から150百万円の損失に修正いたします。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (令和4年11月10日発表)	—	—	—	10.00	10.00
今回修正予想	—	—	—	0.00	0.00
当期実績	—	0.00	—		
前期実績 (令和4年3月期)	—	0.00	—	0.00	0.00

修正の理由

当第3四半期会計期間末の自己資本比率は53.7%と当社が復配の基準と考えている50%を上回っております。ただし、上記記載のとおり、当事業年度の当期純損益予想は損失となる見込みです。まずは、収益力回復と財務基盤を立て直すことを優先したく、配当については期間利益を出せる状態で行いたく存じます。誠に遺憾ではありますが、配当予想を修正し、普通配当(A種優先配当も)につき、無配とする方針です。

(注1)本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(注2)1株当たり当期純損益の計算は、第3回新株予約権の権利行使およびESOP(株式交付制度)の付与による影響を加味し、普通株式の期中平均株式数を計算しております。また、当期純損益からA種優先配当の会計期間に係る支払想定額を控除しております。

以 上